

令和元年度 第1回 総合教育会議

日時：令和元年11月20日（水）
午後2時～午後4時20分
会場：市役所相良庁舎3階会議室1・2

●出席者

杉本基久雄市長

橋本勝教育長（牧之原市教育長、牧之原市菊川市学校組合教育長）

【牧之原市教育委員会委員】

大石幸雄委員、澤田衛委員、吉住幸子委員、寺井ゆみ委員

【牧之原市菊川市学校組合教育委員会委員】

近江賢市委員、鈴木達也委員、道下茂子委員、松浦啓二委員

【事務局（総務部総務課行政係）】

辻村総務部長、原口総務課長、源間係長、本杉主任

【教育委員会事務局】

内山教育文化部長、本目コーディネーター、山本教育総務課長、植田教育総務課
総務係長、大石学校教育課長、永野社会教育課長

【子ども子育て課】

大石福祉こども部長、河原崎子ども子育て課長、永野子ども子育て課子育て支援
係長、榛葉保育園民営化推進室長、板倉保育園民営化推進室民営化推進係長

1 開会

○原口総務課長

本日は、お忙しい中、御出席いただきありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます、総務課長の原口と申します。よろしく願いいたします。

ただ今から、令和元年度第1回総合教育会議を開催いたします。

まず初めに、杉本市長より御挨拶をお願いいたします。

2 市長挨拶

○杉本市長

こんにちは。大変お忙しい中、令和元年度第1回の総合教育会議ということで、お集まりいただきましてありがとうございます。また、日頃から牧之原市の教育行政につきまして、格別な御理解と御支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。

先日の田沼意次候生誕300年、本当にいいお天気に恵まれまして、16日の人形劇、そして奥野さんの歴史演談、特に中学生の人形劇が素晴らしかったという評価を頂きました。本当に子どもたちの頑張りもそうですし、いい企画ができたなと思います。17日につきましても天気に恵まれて、私も城内家老をやらせていただきました。金子隆俊さん、加藤桃子さんに盛り上げていただいて、大名行列が城内に入ってきたときに最高の人出ではなかったかと思えます。かつて、あれだけの人が1箇所

集まった牧之原市の状況は見たことがないというか。数字としては2万人ということで公表しておりますが、本当にそれくらいいたのだろうなと思います。企画、運営をしていただいたのは実行委員会、市民の皆さんと、当日は全て市の職員が出てくれてやっていただいたということで、多くの関係の皆さんから、「これを市民と市の職員だけでやったのはすごいね」と。普通だとイベント会社に委託してやるのですが、「手作りだったというのはすごいね」と。友好都市が三戸町や松川町、人吉市といくつかあるわけですが、そこの方々からも「すごいね、どこもイベント会社入っていないの？」という評価を頂きまして、本当に皆さんの力を結集してできたなと思っております。物販もですね、飲食関係は午前中で完売というところがたくさんあって、「もっとたくさん支度すればよかった」というお話も聞いています。「来年もあまり落とさないようにやってね」ということで、あそこまで意次候をやることはないかもしれませんが、産業祭も含めて301年、302年と積み重ねていく必要があるなと思いました。一過性で終わらないようにしなければいけないということで、この大祭が一つのスタート地点ということで、レガシーとして意次再興をやっていかなければならないと改めて思った次第です。銅像も寄附を集めて建てようということで進んでいますので、寄附金集めも長い期間をかけるのではなく短期間でやるような形で進めていきたいと。既に高額寄附の申出がございますので、来週の頭には公表できると思うのですが、100万円単位の御寄附を頂けそうということで、その辺も一つ出ればほかの企業の皆さんにもお願いしやすくなるなとも思っておりますので、進めていきたいと思っております。大河ドラマについてもですね、ここを一つのスタートとして、道のりは長いかもしれないし、ハードルは高いかもしれないけれども、それを越えていかなければいけないなと思っております。いろいろな関係のところから接触をして、戦略を立てていきたいなと思っておりますので、そのような形で進めていきたいなと思っております。

田沼300年についてはそれくらいにさせていただいて、今日は協議事項にもございますが、平成28年度から31年度までの4年間を期間としている、皆さんで協議いただいていた牧之原市及び牧之原市菊川市学校組合の教育大綱の協議をまず行っていただこうと思っております。それから、「子ども・子育て支援事業計画」と「保育園等施設マネジメント計画」を今年度中に策定するというので、これまで関係の皆さんとの協議を何度も重ね、議会とも意見交換をさせていただいてここまで来ましたので、本日は教育委員の皆さんにも状況を聞いていただいて、御意見等を頂いて、参考にさせていただければと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。

本日の会議におきましては、協議事項についてこの場で何かを決定するということではございませんので、皆さんの御意見をお伺いしたいと考えております。限られた時間ではありますが、活発な御意見を頂きながら進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○原口総務課長

ありがとうございました。

それでは協議事項に入らせていただきます。会議につきましては、市長が座長となることとなっておりますので、協議事項につきましては、市長に進行をお願いいたします。市長、お願いいたします。

3 協議事項

(1) 牧之原市教育大綱について

○杉本市長

それでは、まず、1件目の牧之原市教育大綱についてであります。

教育大綱につきましては、平成27年度末に策定して、本年度で4年目を迎えます。平成30年度第2回の総合教育会議におきまして、見直しの方向性についての御意見を教育委員の皆さんにお伺いさせていただきました。その際には、多くの市民の方々の意見を踏まえて策定したものであり、大綱の位置づけからも短期間で大きく変えることは好ましくないのではないかと御意見を頂いているところでございます。市といたしましても、教育大綱の内容について再度確認をさせていただいて、現状に必要な内容については記載されていると認識をしているところでもあります。そのような中で、本年度のそれぞれの教育委員会の会議の中で、教育大綱について皆さんから御意見を頂いたということを伺っております。

本日は、教育委員の皆さんが一同に会する機会でもありますので、教育委員会の会議での御発言も含め、今後の4年間を見据えた牧之原市の教育に関する施策の目標という観点から、御意見を頂ければありがたいと思います。

それでは、御意見を伺いたいと思いますが、皆さんから一言ずつ頂きましょうか。それでは大石委員からお願いいたします。

○大石委員

この大綱を作るときから関わっています。私は、「こころざしを持ち 夢ある人づくり」という一言に尽きると。この理念が全てであり、基本ですが、「こころざしを持ち 夢ある人づくり」の本来ある意味といたしますか、それをもう少し分かりやすく、誰でも理解できるようなものがほしいなど。というのは、この大綱を作るときにも発言をさせていただきましたけれども、初めは「高いこころざしを持ち」という題でした。私が以前から思っているのは、「こころざし」そのものが高いものであり、いろいろな立場から、いろいろな人がいろいろな時代にこの「こころざし」ということは言われているわけですが、全ての人が始まりは「こころざし」から始まる。これは日本だけではなくて、中国も昔からそうでしたけれども、「こころざしあるものは事竟になる」、あるいは「こころざしを立てることは全て始まりであり、これが全てである」というように言われていま

す。一般的に「こころざし」という言葉は各学校にも掲げられていますし、いろいろな人がいろいろな解釈をしています。私は根本的には「こころざし」ということは、佐藤一斎ももちろん言っていますが、孔子ですね、たどれば。私は、一番分かりやすいと思うのは、孔子が弟子に「こころざしとはどういうものでしょうか」と問われて、孔子は分かりやすく「年寄には好かれ、安心され、自分の仲間には信頼され、若者には慕われる、そういう人になりたい。これがこころざしの目指すものだ。」という、そういうことを思い出しました。「こころざし」そのものは、やはり意味は「心の立派な人になろうとする意志だ」と自分なりに理解しているのですが、「こころざしを持ち 夢ある人づくり」ということは、牧之原市にとっても最高の理念であり、この大綱の全てではないかと。一言、こころざしについて申し上げましたけれども、このように思っております。

○杉本市長

ありがとうございました。それでは、澤田委員お願いいたします。

○澤田委員

ある意味では、この大綱は我々がいろいろなことを考えるとき、それから教育行政に対しての憲法のような、拠り所になるものだと思っております。改めて基本理念、「こころざしを持ち 夢ある人づくり」、非常にいい言葉だなと。私もこの大綱を作るときに携わらせていただいたわけですが、大事なのはわくわくするような感覚、それこそがお年寄りも大人も子どもたちも生きる上で大事なのではないかと私自身は思っているのですが、まさにこの「こころざしを持ち 夢ある人づくり」という言葉の中には、そうしたわくわくする感じがこもっていると捉えております。大綱は、教育の目標と基本方針にかなり細かいところまで触れられているのですが、国際化、ICT、小中学校の適正配置、それから図書環境の充実など、これから具体的に形にしていく事業についてしっかり書かれていて、各論の話合いになると意見の衝突やら迷ったりしてしまうこともあるのですが、そういうときに立ち返って振り返って自分たちが進んでいる方向が正しいのかどうかということを顧みることができるものであるべきだと思っておりますので、もし細かい文言等修正するところがあれば考えなければいけない。でも、今のところ書かれている内容について、私たちが向かっているのがどこであるかということを確認できるものであるかなと思っております。

あと2点ですが、国際化、英語の大切さ、理解教育の大切さ、それにここでは国語力の向上ということが書かれているところが、ある意味特筆すべきところだと思うのですが、果たして今それに向けて何かしらの具体的な施策がされているかなと、そこだけ気になりました。それから、その上に「幼児期から、体験活動を通して」とあるのですが、これこそ牧之原市が、都会は英語の外部入試の問題もありまして、地方と都市との教育の格差のようなことも言われているのですが、

やはり田舎には田舎にしかない、実際の、言うなればリアルな自然がある。そういったものを活かした教育を目指すべきではないかなと思っておりますので、この2点を改めてしっかり読んだ中でもっともっと実際の施策に活かしていくべきではないかという気がいたしました。私からは以上です。

○杉本市長

ありがとうございました。吉住委員いかがでしょうか。

○吉住委員

時間が経っているので、細かい修正は加えていただきたいと思います。現場の教員が、これをただ置いてあるものではなくて何かあったときに必ず見てもらえるように、もう少し短くならないかなと。これ以上は短くならないかなとは思いますが、少し長いかなと思います。全体を見ていくと、学校教育が中心になっていて、今は赤ちゃんからお年寄りまでという生涯学習になっているので、学校教育以外のものももう少し充実させたいなと思います。

県の教育プランを見てみると、「読書活動の推進」とか、「子どもと大人の読書活動の推進」みたいにしっかり入っているので、先ほど国語力の話を澤田委員が話されましたが、やはり全ての大本なので、どのようにして読解力を付けていくのかということも、もう少し具体的に、教育大綱なのでそこまで細かいことまで書けないと思うのですが、人が見て「牧之原市らしい」と言われるようなものに少し変えていきたいなと思います。

○杉本市長

続いて、寺井委員お願いいたします。

○寺井委員

前回、教育のあり方検討のときに、望ましい教育環境というものに、この教育大綱が時間が経っていて沿わないのではないかということをお伝えしたのですが、そのときに「次代を切り開く力」ということを取り入れていくという方向が出たので、その内容を大綱にも入れた方がいいのではないかと思います。それと、先ほど吉住委員が仰っていましたが、生涯学習ということで、学校教育だけではなくて生涯を通して自ら学ぶという市民をつくるというような意識もあるといいなと思いました。

基本的に大事なものは時代が経っても変わらないと思うので、人間形成の基本的なことはとても大事だと思うので、土台的な「人の思いやり」などは大事に残してほしいと思います。

○杉本市長

では、近江委員お願いいたします。

○近江委員

前回までは、提案された「望ましい教育環境のあり方に関する方針」等を付け加えるのが望ましいのではないかと思っていたのですが、この機会にいろいろと考える中で、大きな変更をした方がなじむのではないかと思うようになりました。というのは、6月22日に「牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針について」の報告がありました。その始めのところに「活力を高め、若者が魅力を感じる住環境や雇用、教育環境などを実現する」や「児童数の減少や、学校施設の老朽化に伴い、子どもたちが学びやすい環境を整えるために適正化を図る」、「小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため、小中学校の再編計画を策定する」を柱に報告がありました。その中で、これからの社会の変化にどのように対応していくかということで、「次代を切り開く力」というものが提案されました。そして、それを実現するために「キャリア教育を軸とした小中一貫教育」や「地域と学校が目標を共有し、同じ方向を向いて子どもたちを育む学校づくりができる仕組みとしてのコミュニティスクール」が、大きな柱として提案されたと思います。教育現場からすると、キャリア教育と小中一貫教育とコミュニティスクールは、どれをとっても簡単にはいかないと思います。それを同時進行で進めていって、再編をする。だから、ものすごく大ナタを振るう歴史に残る大きな変革だと思います。それが今始まりつつあります。今度の教育大綱は来年からの4年間ということで、その4年間の中でほぼ形が決まってきて、建設の方向へ動いていくという大きな変革の過渡期であります。島田委員長を中心に、「次代を切り開く力」ということで提案されたいろいろな方針を、この大綱の中に盛り込んでいくことは不可欠だと思うし、それを考えていくと、一番大事な「次代を切り開く力」を中心に据えながら、分かりやすい教育大綱にしていく必要があると感じました。

そう思った一つのきっかけは、先日の第1回の再編計画策定委員会の中で、ある委員が御発言で「職員に小中一貫教育の良さを説明しきれないという苦しさがある」というものです。京都の東山泉小学校の校長先生が小中一貫教育について語られた、「子どもたちは、小中一貫教育によって環境が良くなるのでとてもいい。でも、それを実現するためには先生方の努力がものすごく必要になる。」という言葉がありました。だから、現場の先生方が本当に納得し、保護者が納得し、その上でできていくものでないと本物はできないと思います。そういう意味でも、この教育大綱がリード役になって、目指す方向が分かるようなそういう大綱にすべきではないかなと考えるようになりました。

○杉本市長

続いて、鈴木委員お願いいたします。

○鈴木委員

私は、先ほど市長が言われたように大綱自身はころころ変えるようなものではないと思うのですけれども、さっと目を通して見て、もちろん大綱というものの性格上こういう記述にならざるを得ないのかなとも思うのですが、非常に全方位的というか、多岐に渡って同じぐらいの力の入れ具合というようなイメージを受けました。実際にはこの中には優先順位の高い低いがあって、そこをもう少し読んだときに読み手に伝わるような、文言というよりかは記述の順番というか、言葉の使い方というか、そんなところで、全体としての中身を変える必要は私はないと思いますが、そういったところで変化というか強弱を付けて、「主に市が強く目指しているのはここだけでも、全体的にはこういうことを考えている」ということを伝えられるようにした方がいいかなと思います。

○杉本市長

では、道下委員お願いします。

○道下委員

私がおばさんの立場からこの大綱を見たときに、大綱というのはある意味道しるべみたいな感じかなと思って読ませていただきました。教育目標は、学力の向上だけではなくて心の成長を願うそういう気持ちが込められているなど、すごくいいことだなと思います。ただ、吉住委員や寺井委員が先ほど話したように、人間はずっと成長していくものだし、学習は生涯あるもので、生涯学習というのは死ぬまで続けていくものなので、そういうものも盛り込んだらいいなど、今お話を聞いていて思いました。もう少し、私たちおばさんにも分かるような具体的なこととかあったらいいのかなとは思いました。

○杉本市長

松浦委員は、皆さんと以前顔を合わせているのでしょうか。

○松浦委員

1回、2回ほど。発言はなかなか。ちょっと何を言っているか分からないというか。

○杉本市長

もしあれでしたら自己紹介程度に何か頂ければ。

○松浦委員

今回、前任者と代わりまして、地区の方から選ばれたというか行ってこいと言

われまして、最初にしては荷が重いかなと思っています。

私も地元の幼稚園から中学校までを出まして、現在も地元で暮らしているわけですが、我々の若い頃は学区も今までとほとんど変わらないようなやり方だったので、その関係で牧之原にも昔青年団というのがありまして、そこで相良の自分たちと同じぐらいの人たちと仲良くなりまして、いまだにお付き合いをしております。牧之原自体は青年学級ということで青年団ではなかったのですが、青年団活動の方に参加をしましていろいろと勉強をさせていただきました。その当時の教育長は、今でも覚えているのですが、なかなか頑張っている人で、青年学級というのは、あの当時は町だったので、当時の教育長に発破をかけられまして、いろいろなことをやらせていただきました。しっかりやることだけはやれとよく言われました。

学校行政というのは、よく分からないのですが、地元が小さい地区なものですから、保育園から中学までPTAの関係はいつも絡んでやらせていただいたような気がします。ただ、内容についてはよく分かりませんので、今回こういうところに参加させていただいて、勉強したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○杉本市長

ありがとうございます。それでは、教育長から皆さんの意見を聞いて何かあればお願いします。

○橋本教育長

委員の皆さんからいろいろな角度から御意見が出ました。平成27年度にこの大綱が一斉に各市町で作られ、牧之原市も、ワークショップでいろいろな市民の人の意見を聞きながら作り上げた経過があります。そこに携わっていなかったこともあって、そうそう簡単にはこれを理解し、こうした方がいいというような簡単な意見は言えないなという思いで、この1カ月、2カ月、見直しの時期ということで考えてきたわけです。いつぞや教育委員の皆さんに言った、大本になる基本的理念のところの「こころざしを持ち 夢ある人づくり」というところを、今大石委員が言ってくださいました。それで理解できた部分もあるのですが、先ほどもう少し分かりやすく、誰もが理解しやすくという部分でのもう少し何か必要ではないかというお話も受けて、自分自身は本当に迷ったというところがありました。こころざしを持って夢ある人をつくっていくのか、こころざしを持った夢ある人をつくっていくのか、という部分が本当に迷っていて、いろいろな人に聞いてみても、「どちらとも取れるのがまたいいところだ」という話もあると、自分の中でどう落とし込んでいけばいいのかなと思ったわけです。「こころざし」という言葉はすごくいい言葉で、これからも大事にしていくべき言葉でここは外したくないなという思いがあったのですが、「夢ある人」をもう少し肉付けしてあ

げるといいのかなという思いがあったので、どちらにも取れるということをお願いしておけば、「夢ある人」っていうのは、例えば先ほど出てきた「次代を切り開く夢ある人」とか、「次代をたくましく生きる夢ある」というような、単なる夢を持っているという意味ではないと思うのですが、そういうことを思ったことが1点です。ただ、根幹ですので、うっかり触るのは作成に携わった人からすれば違うんだぞという意見がもしかしたら出るのかもしれませんが。

あと、教育の目標に関しては、この4年間でいろいろな新しいものが入ってきたのですが、そんなに大きくは変わらないのだろうなと思います。学校教育だけではなくて、社会教育の部分も含めて、全てを網羅しているのではないかと。この中の基本方針というところに、若干の修正が必要になってくるのかなとは思いますが。例えば、2番目のところの「学ぶ意欲を高め、確かな学力をつける教育」、これはいいのではないかと思います。その中に先ほど出ている読解力の問題、この辺りが必要になっていくのであろうなと思います。あと、学校再編に関して、「小中学校の適正配置と学ぶ環境の整備」のところも、「児童数の減少や学校施設の老朽化に伴い」というそこが全面に出てしまうのはどうかと思うのですが、そういうことが進む中で、「子どもたちが学びやすい環境を整えたい」ということにポイントを置きたい。その実現に向けて、規模とか配置を検討していくということが大事かなと思います。この中に「キャリア教育を軸とした小中一貫教育」という具体的な文言を入れられたらいいかなと思いました。3番目の柱の中には、「いじめ」とか出ていますが、やはり「人権」とか「インクルーシブ」というのが一番大事になってくるかなと思いますので、そういうことが込められればいいかなと思いました。読書活動については、この中にも「本を好きになり」とありますので、この言葉でいいのか、もう少し強調した形にした方がいいのかという修正は必要かなと思いました。それと田沼の話が出たので、「鈴木梅太郎博士をはじめとする」という中に田沼が入ってもいいかなと。今回思ったのは、田沼意次について子どもたち自身がこれまであまり意識していなかったけれども、その学習をじだして、またお祭りもあって、田沼意次の理解が深まったこと。これは、教育の効果というか、同じように鈴木梅太郎博士、藤田正人先生というように学びが広がっていけば「我々の誇る郷土は素晴らしい人たちを輩出しているんだ。夢を持って続いていこう。」というようになる。ここは大事にしていきたいなと思いました。あと、「地域活動」の中に、地域、家庭、学校の連携という点でコミュニティ・スクールも入ってくるといいのかなと思いました。

思ったことばかり羅列ですいません。大方、委員の皆さんと考え方、方向性としては合っているかなと思います。

○杉本市長

あまり変えないというようなことでしたが、今意見を聞いていると変えた方がいいという意見が多々出たような気がするのですが、今日ここでどうするこうす

るということではないので。

学校再編の問題というのは、来年度中に結論が出るということだったでしょうか、教育長。

○橋本教育長

そうです。

○杉本市長

とすると、そこら辺との整合性は合わせる必要性があるかもしれないと感じたことが一つ。それから、図書の問題とか生涯学習の問題とか出ましたけれども、そういったところもあるかなと。

私が一番思ったのは、この大綱の中の基本方針が具体的にどのように活かされているか。教育現場なり社会教育にしても、そこら辺が確かにいい理念、方針があるけれども、「いいね」と言っているだけでそれが具体的に、例えば「健康な体と心を育成し」というのがあるけれども、「身体健康の向上に努めるとともに心の健康も充実させ、自他を大切にする思いを育て、自分に自信を持てる教育を目指します。」。では、このために何をしたいのか。そういうところが、一つ読んだだけだけれども、全てにおいて方針がある中で実行計画みたいなものが教育現場の中であるのであれば見たいなど。どういう取組をしているのか確認したいということも思ったのと、子ども・子育て計画とか健康計画とか、たくさん4年に1回とか5年に1回とか作れというものがあるから行政では作るのですが、計画を作るのが仕事で実行するところが伴っていないような気がどうもする。この間も健康づくりのところでは言ったのですが、1日に何時間か運動する子どもを増やそうとしているけれども逆に減っているという状況がある。確かに勉強することはいいことなのだけれども、運動離れになっていないかという気がする。その計画とか理念に基づいて具体的に何をするというところまで落とし込んでいかないと、単なるきれいごとを並べただけになるという気がする。

その辺、いかがでしょうか。

○橋本教育長

少しいいですか。大綱だけを見て細かい議論をしてしまうと、ずれるかなと思います。それは、第2次牧之原市総合計画の中に、教育文化の施策があります。ここに基づいて各課、室が、具体的な施策として今年度どうするというをやっています。それがどうだったかということも、教育委員会では自己点検、評価という形で毎年数値、あるいは文面で出し、最終的には専門家の方から評価を頂いて、振り返りをしている。繋がり体系的にはありますので、大綱は本当に大本だと捉えていただければ、やはりぎっくりになるかなと思います。

ということで、全てがそうですが、これを作ることが目的ではなくて、これを

いかに具体的にしていけるかが問われますので、そういう中で挙がってきたときの言葉が全体を支えるものであってほしい。ここに何か抜けていないかとか、あるいはかなり細かくしすぎではないかということは確認する必要があるかなと思います。

○杉本市長

今日、ここを深めていくと何時間もかかってしまうので、今まで頂いた意見を含めて、ここをこうした方がいいのではないかと御意見を、また次回挙げていただくような形にしたらどうかと思うのですが、どうでしょうか。

○澤田委員

効力、拘束力みたいなものはある程度あるのでしょうか。例えば、全面的に作りかえることも、そのままにすることも、ある意味今の我々にはどちらも選択肢があるということで捉えていいのでしょうか。

○橋本教育長

法的に大綱は作らなければならないので。

○澤田委員

例えば、何年間はいじってはいけないということはないのですね。

○橋本教育長

向こう4年間を見通してのもので、見直しの年に変えていくと。1回作ったからいじってはだめですよということではなくて。大綱自体も、牧之原市版がスタンダードかという点と違います。これはどこの市町もホームページで公開されていますので、いろいろ見ますと、例えば沼津市であれば、目的があって3つの目標があって、この組み立て方自体が違います。さらに、先ほど一つ言い忘れたのですが、教育振興基本計画というのが、市町によっては作られています。牧之原市は教育振興基本計画はありませんが、市の施策等と連動する中で、具体的に落とし込んだ計画を教育委員会で作っています。

○澤田委員

活用の仕方もある程度自由になりますか。というのは、例えば常日頃、我々教育委員、事務局の皆さん、各現場の先生方で基本理念や教育の目標を会議とかの場で始まる時に唱和をして、みたいな。私がイメージしたのは、私が所属していた青年会議所でそういった形で始まるのですが、そうする中で共通認識ができて、我々がここに向かっていこうんだなということを確認するような、そういう活用の仕方もあるのかどうか。

○橋本教育長

学校では、大綱と関連づけた学校教育目標というものがあります。どちらを大事にするのかということについては、学校は学校教育目標があり、単年度の重点目標があり、様々な目標があり、という中を意識しながらやっているということです。これを唱和するしないは別にして、どこかに掲示するというのはおかしくないことだと思いますし、それだけ大事にしていると思います。

○澤田委員

特にこれからは大きな変革に向かって進んでいく4年間でもありますので、そういったことをイメージしながら、例えばそうやっていろいろ携わっている人たちが意識を共有できるようなものとして、そういった視点も必要かなということ発言させていただきました。

○橋本教育長

前回4年前に作られた時点と、4年経った今で何が変わったかということをはきちっと押さえ、これから4年間を見通す中で修正していかなくてはいけないということです。今回各課から、学校教育も社会教育もスポーツも挙げてもらって、委員の皆さんにこんなことが変わってきていますよということをお知らせさせていただきました。そういう中で、先ほどのあり方とか、教育が、学習指導要領が新しくなって変わってきていますよということ、この中に少しでも落とせば、次の4年間は大丈夫かなと思います。

○吉住委員

お伺いしたいのですが、これまでのお話の中で、もう少しかなり精査していかないときちっとしたものにならないのですが、それをやるのは教育委員会がやるのでしょうか。でも、この会議自体は市長部局なので、どうなるのでしょうか。

○原口総務課長

内容的には教育に関するものが主なものになりますので、その辺は教育委員会と総務と話をしながら、見直しというか、見直しの案を作っていくというか、やっていかなければいけないかなと思います。ただ、前回4年前に作ったときには、市民の皆さんにも参画していただいて、ワークショップをやったりだとかということもやっていますので、それも検討しなければいけないのですけれども、今回の見直しをするに当たって、市民をどのように参画させるかということも検討しなければいけないのかなと思っています。

○杉本市長

基本的にはこの教育大綱は市長部局ということだけれども、内容としては教育のことなので。

○吉住委員

かなり詰めないといけないので、それを2つの課ができるのかなと思いました。まず、大本は教育委員会がやるなら教育委員会で案を作ってあげないと。

○橋本教育長

ですので、今日出された意見をこの中に落としてもらって、具体的な言葉で今度見ていただく必要があるかなと思いました。ここを削るとか、ここを入れるとか、そういう形で議論すれば細かいところまで反映されるし。それと、先ほど言ったここで決定して終わりにするか、前回の手順をやるのかということはまた議論が必要になる。広くということは必要なのかもしれないが、今度は収まらなくなってしまう可能性もありますし。

○吉住委員

集中してやらないとなかなか決まらないかなと思いました。

○杉本市長

最初は、ワークショップやったりして広く意見を聞いた上でこの5つの基本方針も定めていったと思うのですが、理念であるとか方針を変えるということであればもう1回市民の意見を聞かなければならないけれども、今教育長が言ったように、皆さんから出た意見のように、この先4年を見据えた中で一部修正するというのであれば、そこでまた聞き出してしまふときりが無いと思うので、そこは今頂いたような意見の中で教育委員会も含めて案を作るとか、あるいは皆さんからもう1度具体的な意見を出してもらったりして見直し案を詰めたらどうかと思います。

それから、教育長も言ったけれども、振興基本計画というか、これに基づいた具体的な取組もあった方が担当としても教育現場としてもやりやすいように思います。またそれを作るのも仕事になってしまうので、それはそれで大変になってしまうとは思いますが。

○橋本教育長

できないと言っはいけないのですが、これがないと具体的に進めていけないと思っはいます。そう言っているうちに4年は経ってしまう。無計画で今まできているわけではないので、各計画を集めて教育振興基本計画ができればと思います。

○杉本市長

総合計画があつて、実施計画でそれを落とし込んでいるということならあえて計画を作らなくても、その具体的内容はこれですと出せばいい話であつて、実際に予算をつけてこういう教育行政をやっていますというところを出せばいい話だと思う。

○橋本教育長

牧之原市の教育ということで、目標から計画、実際にどのように取り組んでいるという事業まで網羅できるものが、一つにまとめられればいいかなという思いはあります。

○杉本市長

今日も教育長と話したのですが、教育の良し悪しというか、何をもって良しとするか悪いとするかは置いておいて、選ばれる時代であつて、移住定住にしても、この市はこの教育はすごいよねというか、それで住んでみたい、育てるならこの市町がいいというか、選ばれる時代だと思います。なので、そこは分かりやすい方がいいと思います。スポーツの話もしましたが、隣の吉田町は400mリレーで日本一で日本記録を作ったり、今度駅伝で県大会で優勝して全国大会に行くじゃないですか。そういったスポーツの面で、陸上にしても文化でもいいのですが、どこか尖っているところがあれば注目されるし、プライドを持つというか、市民が、あるいは子どもたちが「僕たちのところはこんなにすごいんだぞ」という自信を持てたりするのかなという気がします。逆に一方では、牧之原市では、この前の健康づくりの推進会議の中では、「スポーツに取り組む子どもの数が減っている」みたいなことが、結果としてアンケート結果で出てきたり、あるいは中学校に行くとも部活動がすごい偏っているみたいで、パソコン部が100人ぐらいいたりとか。逆に野球部は0とか。小学校のときは陸上教室にたくさんいるけれども、中学校にいくとも陸上部がいなくなってしまうとか。そこら辺がどうなのというか、市全体として取り組む姿勢というか、子ども任せとか、親任せじゃないところがあつてもいいのでないかなと思います。そこら辺が、最近どうかなと私自身が気になっているところがあります。例えばテニスが人気が出ればテニス部にどんって人がいってしまう。100人も。それでテニスコートを作ったら何年後かにはほかの部活にいきました。そうになってしまう。そこら辺を、どうコントロールするのか、方向性づけしてあげるのか、子ども任せにしてしまつていいのかと、そこが気になります。

○橋本教育長

部活に関しては、部活動の指針も出ていて、非常に変わってきている環境にあると思います。学校ではなくて外部指導者に移していく、要は社会体育の方に移

行している時期でもありますので、そういった事情もあるのは確かです。また、スポーツ競技は、突出しているとかかなりいい成績を残している子も牧之原市にいないわけではなくて、実際はいます。ですから、そういった子をできるだけ拾い出してというか、もっと大きな大会にいけるような環境を整えてあげることが大事なかなと思っています。昔は部活全員加入が当たり前という時代だったのですが、様々な家庭、親の考え方とか事情とかの中で、選択肢が増えた一方、そういったスポーツに親しむ子が減ってきてしまっているという現状もありますので、これも大きな課題だとは捉えています。それほどどこかで施策としてうっていかねばいけないということもあるのかなとはと思っています。

○杉本市長

それでは、皆さんからいろいろと意見を頂いて、この大綱については、皆さんから頂いた意見、それから教育長の考え方、私もいろいろと言わせていただきましたけれども、全く触らないというわけにはいかないだろうということを感じました。ですから、皆さんから頂いた意見を取り入れたような形で見直し案を作らせていただく。この場に出ていないけれども、こうした方がいいというような意見が各委員さんありましたら、事務局の方に出していただくというような。また事務局の方から期限を決めて御案内をさせていただいたらどうかなと思いますので、お願いしたいと思います。

それから、振興計画については作るということが大変だということであれば、先ほど言ったように総合計画、それから実施計画等を抜粋して見える化をしてもらうようにしたらどうだろうと思うので。なおかつ、できてないところはどこだろうと検証する必要があるのかなと思いますので、ぜひ担当課の方へ指示をしたいと思います。

(2) 子ども・子育て支援事業計画等の概要について（報告）

○杉本市長

次に、2件目の子ども・子育て支援事業計画等の概要についてということですが、これは報告であります。その中で、何か気づいた点等があれば御意見していただくのは構いませんので。

それでは、担当課の方からよろしく申し上げます。

○河原崎子ども子育て課長

子ども子育て課長の河原崎と申します。よろしくお願いいたします。子ども子育て課からの報告となります。現在策定中の2つの計画について、いずれも子どもに関する計画となりますので、この場をお借りしまして内容について説明をさせていただきます。

初めに記載のあります子ども・子育て支援事業計画ですが、こちらの計画は子

ども・子育て支援法第61条に基づく計画で、全ての子どもの健やかな育ちと子育て中の保護者を支援するとともに、地域社会が一体となって子ども・子育て支援を推進するための計画となっております。今年度、第2期分を策定しております。期間は令和2年度から令和6年度までの5年を1期としたものであります。

次に記載のあります保育園等施設マネジメント計画、こちらの計画ですが、市の方にあります公共施設マネジメント計画の個別計画として位置付けるもので、市内の公立保育園等の施設運営や適正配置、また、保育園等を民営化する手法などにつきまして、基本的な方向性を定めるための計画です。今後の少子化、核家族化など、家庭や地域を取り巻く環境の変化や保育ニーズの多様化にも対応するための計画を策定しております。

2つの計画の内容につきましては、係長から詳細を説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○永野子ども子育て課子育て支援係長

子ども子育て課の永野と申します。よろしくお願いいたします。私の方から、子ども・子育て支援事業計画の概要につきまして、説明させていただきます。

〔「牧之原市子ども・子育て支援事業計画」について、資料3を用いて説明〕

○杉本市長

それでは、中間報告ということではありますが、報告させていただきました。御質問等ございましたら、遠慮なく挙手にてお願いいたします。

○鈴木委員

小中学校は学校再編ということで問題になっていますが、保育園については再編等ないのでしょうか。

○杉本市長

次の保育園等施設マネジメント計画の説明の中で方針を示しますので、そこでお答えさせていただきます。

○近江委員

先ほど市長が仰ったように、選ばれる時代ということで、若者が魅力を感じる住環境や雇用、教育環境というのはすごく大事だと思います。再編計画が進んでいって、この事業計画が5年なので、その間かなり進んでいくと思います、あり方検討委員会の話合いの中では、単なる小中学校の再編ということではなくて、子育て全体を見渡した中で子どもを育てていく環境を作っていくことが大事だという意見が多く出たと思います。そういう意味では、再編とどう連動していくのかということところがすごく大事になってくると思うのですが、その辺についてはど

のようにお考えなのでしょうか。

○永野子ども子育て課子育て支援係長

当然、学校の再編と子育ての再編とといいますか、放課後児童クラブなどと学校の生活はかなり密接に関係がありますので、学校が再編されれば児童クラブについても今あるところから学校に連動して運営する場所がある程度変わっていったりとか、さらに環境を良くしたりという可能性が考えられますので、学校だけではなく、周辺の子育て環境の充実というのも、十分関わり合いがある内容だと思います。

○橋本教育長

この先の牧之原市のまちづくりと大きく関わっている部分がありますので、その全体像の中に子育ても当然あるし、学校再編もあるという形になるのではないかと思います。

○河原崎子ども子育て課長

後で説明いたしますが、保育園の民営化を進めていく中で、地区の皆さんや保護者の皆さんといろいろと意見交換をさせていただいています。その中で、やはり特に地区の方は、今後学校が再編されて地区からなくなってしまうと寂しいという声がたくさん聞かれました。保育園の方も、そのような形で統合したりとかしていくと地域に何もなくなってしまうという声が非常に多くて、後で説明いたしますが、保育園についてはなるべく地区に残していこうという計画を立てさせていただいていくということで、こちらの方は後で説明いたしますが、そのような方針を立てています。

○近江委員

小中学校を再編するに当たって、学校施設だけではなくて例えば図書館だとかプールだとか、市民施設だとか、そういう施設と一体的に考えていった方がいいのではないかという意見が多かったと思います。私の質問としては、そういうことと絡めて具体的にどういう意見があるのかだけではなくて、どういうように一体としてこれから進めていくのかなというこの質問でした。

○杉本市長

どちらかという学校再編の進め方ということによろしいのでしょうか。
その辺は教育長いかがでしょうか。

○橋本教育長

再編計画は、学校をどれぐらいの規模にして、どこに設置して、どういう環境

でやっていくかという計画を立てるのですが、そこにはもちろん牧之原市の将来的な像、どういうまちをつくっていくのかということと連動しますから、関係部署とももちろんその辺の調整は必要になっていくのではないかと思います。具体的にどうかということは今お示しできませんけれども、単独でということよりもそういうことを見据えながらやっていく。それがうまくいくかは分かりません。市が目指すところとぴったりいくのかどうか。理想を語っても現実が追い付いてこないということもあります。財政事情的なこともあるのかもしれませんが。あるいは、市民プールや運動場を造るといっても土地の問題もあるかもしれません。そういうことも勘案しながら、今後進めていくということになろうかと思います。

○杉本市長

私が思っているのは、プールにしても今各小中学校にあるわけですが、相当老朽化をしていて、牧之原小学校のプールは私が小学校のときにできたので50年以上経っている。それを直していくとなると相当なお金がかかる。でも、子どもの数は私たちの頃の半分以下。そういったことも考えていくと、全てをやりますというのは不可能なのですね。そういった意味では、ある程度の方向性を、10年後の方向性を決めた中で、ではこの10年はどうしのごうということも考えていかなければいけないと思います。今年、萩間小学校はプールを直すとお金がかかるということで、2時間授業でB&Gに来てもらって、B&Gでやってもらった。B&Gならプールの期間も5月から9月頃までやっているの、期間も長いということで、その中で授業もまとめてやれる。あるいは、静波のエースワンだと年中使えるということからすると、なんでもかんでも今ある学校の中にプールを再整備するというのは無駄だと思いますし、学校も含めて50年以上経っているということからすると、再編計画というのは避けて通れない問題。

それから、先ほどの大綱にあるように、老朽化したからどうのこうののではなくて、教育の質が大事であって、そのためにはある程度のスケジュールがないと質が高まらないだろうということを含めて、この2年間の中である程度方向性をしっかり出しましょうということをやっていく。そうすると当然この子ども・子育て計画との連携は不可欠だろうと思います。それと皆さん言われるのは、「保育園までなくなってしまうの」という意見があるので、それはセットでやらなければいけないだろうということで、後で保育園のマネジメント計画を説明しますが、先ほど担当が言ったように、私は保育園に関しては極力各地区にあるものは残したい。規模が小さくなっても保育園であればやりようがあるというところがあるので。ただ、そのためには当然財源が必要になってくるし、運営の仕方もあるし、組織のあり方、民間でできるところは民間でということもあって、国の方針もあるので、そういったところを踏まえて、今保育園の整備計画をやっております。

○橋本教育長

10年、20年前というのは学校がほとんどのことを抱えてやってきた時代。今は、市の支援のところ、あるいは連携しながら共に育てていくということが、本当に充実していきているなどすごく感じます。助けられているというか。いろいろ課題があるお子さんが市の機関のところでも相談することができたりだとか、さらには、放課後児童クラブで学校を離れている間面倒を見てくれたりとか、そういうことも、子どもを育てていく中で非常に大事になってくるし、それが本当に充実してきているなど。さらにもっと良くしていくため、今後も教育委員会と関係部署との連携が重要になってくるかなと思いました。そういった意味で、この計画というのを見ていただけるとありがたいなと思います。

○杉本市長

今、教育長が言った中で、放課後児童クラブもただ子どもを預かるだけではなくて、学校法人や宗教法人では勉強まで面倒を見る。放課後児童クラブに加えて、塾ではないけれども勉強まで見るということ、独自にやっているところもあります。これから、そういうものが求められるニーズが高まってくるような気がしますので、そういったことも踏まえてこれから考えていかなければいけないなと考えております。

それでは、時間の関係もありますので、牧之原市保育園等施設マネジメント計画について、担当から説明いたします。

○板倉保育園民営化推進室民営化推進係長

それでは、牧之原市保育園等施設マネジメント計画の概要について御説明いたします。保育園民営化推進室の板倉と申します。よろしく願いいたします。

〔「牧之原市保育園等施設マネジメント計画」について、資料4を用いて説明〕

○杉本市長

それでは、保育園等施設マネジメント計画について説明をしましたが、御質問や御意見等がありましたらお願いしたいと思います。

人口減少の数値は、社会保障人口問題研究所が出している単純な数値であって、第2次総合計画で、波及効果を起こすことによって3万人を切ってしまうのを3万8千人に留めましょうという勘案はしていないということではないのか。

○板倉保育園民営化推進室民営化推進係長

していません。こちらについては、社会保障人口問題研究所の推計をそのまま使っているような形になります。先ほど説明したような内容で人口減少を食い止めたいということになります。

○杉本市長

保育、教育の環境を整えないと、予測通りの推計でいってしまうということで。

○寺井委員

マネジメント計画は今日初めて見せてもらったのですが、その前の支援事業計画との関わりですけれども、私が子育てをしているときから比べると、充実ぶりがすごいなということが正直思うところです。子育てに対する支援はすごいのですが、子育てというのは、学校のことにも関わってくると思いますが、親育てということがすごくあると思います。不登校も多いのですけれども、親と先生の関わりが濃いのがやはり保育園の時代だったり、保健婦さんが指導にくるときから、親育てがずっと繋がっていくと思います。そういう親育て的なことが、この計画の中からは見えないというか、感じられないというところが、私として残念だなと思っています。

私が教育委員になったときに、「ネウボラ」というのを聞いたことがあって、妊娠のときから就学までをずっと繋がりで見るという、そういうことは牧之原では、事業の中で通してみればやっているのかもしれませんが、そういう支援がすごく大事ではないかなと思っていて、私も子育てのときにいろいろな不安がありました。子どもが小さいから不安とかではなくて、成長によってそのときそのときのいろいろな悩みがあると思うので、そういうことを支援できるものがあるといいなと思いました。

○河原崎子ども子育て課長

支援事業計画の41ページを見ていただきたいと思いますが、上から3番目に「子育て支援セミナー開催事業」ということで、育児における不安や負担の軽減を図るということで、そういった相談だとか、もう少し下の「乳児家庭全戸訪問事業」ということで、乳児のいる全ての家庭を訪問して対応したりとか、その下の「育児相談事業」とか、そういったところで子育て中のお母さんとか生まれたばかりの赤ちゃんのケアをしていくという事業が入っているということになります。

○寺井委員

私のことばかりで申し訳ありませんが、私の子どもが保育園に通っているときに、自分の子どもが絵本が好きだということを先生から聞いて、それで私も絵本に親しむようになって、それから図書館に行くようになったというきっかけがあって、本との関わりが子育てにとってすごく大事だということを感じてきました。図書館についていろいろありますけれども、図書館とか本が子育てにとってすごく大事だということをここで言わせていただいて、大事に進めてほしいなと思っています。

○杉本市長

そのほかに保育園に関する御意見等がないようでしたら、意見交換に移らせていただきますが、よろしいですか。では、その他全体のことについて何かあればどうぞ。

(3) 意見交換

○吉住委員

今、寺井委員の話にもありましたが、新聞ですごく話題になっているジャンボエンチョーの跡地の相良図書館の件ですが、時間がない中で教育委員会の事務局が図書館協議会に諮りながら話をすごく前に進めてくれていると思います。ほかの商業民間施設と同じフロアの中に入る公共図書館というのはあまりないものですから、やはり課題が山積していると思いますし、苦勞もなさっていると思います。図書館協議会の方たちは、長い間図書館がほしいという運動をしてきた方たちなので、すごく図書館がこうでなければという強い思いがあるとは思いますが、市民がどういう図書館がほしいのかわかるということ。それについては、市民は敷居の低い図書館、入りやすい図書館を望んでいると思いますので、ぜひ歩み寄ってほしいなと思います。

たまたま先週に東北の宮城県の名取の市立図書館を見学する機会があったのですが、この図書館の設計は、今回相良図書館の設計をしている岡本真さんでした。名取市立図書館を入るとすぐ左側にカフェとレストランがあります。すごく落ち着いた雰囲気、コーヒーの匂いも気にならなかったですし、音も気になりませんでした。私がいいと思ったのは、カフェなのでスタッフは7時30分に出勤してくるのですが、出勤してすぐ図書館の新聞や雑誌を利用者がすぐ見れるように準備をしてくれます。そうすると、図書館の職員の出勤は8時なので、この30分はすごく助かります。カフェも、お客さんは新聞や雑誌が一番先に読みたがるので、とても喜んでもらえる。もちろん店の売上げも上がる。一番の目的は市民の満足感。カフェも満足している、図書館にも満足している。私も初めてこの図書館を見て、現場の成功例を実感したので、この会議でお話をしたいと思いました。

ジャンボエンチョー跡地の相良図書館は、失敗できないケースだと思っているので、すごく大変だとは思いますが、ぜひ前に進んでほしいと思いました。

○杉本市長

その件に関しまして、進捗状況等についてももしお話しすることができれば。

○永野社会教育課長

吉住委員からお話が出ましたジャンボエンチョー跡地を使った図書館、複合施設という形での整備をこれからオーナーの方と進めていくということです。今現在の状況としましては、今年から来年にかけて、使い方ですね。こういった用途

のスペースをどういった形で配置するかということを含めて、今年、来年で協議しているところで、令和3年4月オープンということで進めております。オーナーの方もですね、当然自分でテナントを入れたり、自分で事業をやりたいという構想の中に図書館をいうものを連動させて、お互いが相乗効果でwin-winになるような、施設全体としての効果が出ればいいなということで非常に理解を頂いておりますので、そういった中でお互いの思いが十分叶うような、市民が満足できるような施設として整備を進めていきたいと思っております。今、吉住委員が仰っていたことも、非常に参考になるものだと思わせていただきましたので、今後もよろしくお願ひしたいと思っております。

○杉本市長

今年、来年で計画を作るということでしたが、今年度中に作って、令和2年度がハード整備ということになります。

○道下委員

細かい質問なのですが、子ども・子育て支援事業計画の48ページの下から2番目の「外国人児童生徒教育支援事業」の現状で、バイリンガル相談員4名が書いてありますけれども、この相談員は各学校で外国人の生徒を教えているのでしょうか。もしそうであれば、外国人の子どもたちは何人ぐらい相談員の方に教えてもらっているのでしょうか。

○大石学校教育課長

このバイリンガル相談員は、外国人の児童生徒が多い学校に集中して配置するということでありまして、市内で言いますと、細江小学校を中心にしながら配置をしているという状況になります。正式に何人かということは今お答えできないのですが、正式な数の方がいいと思うので、金曜日の教育委員会の際にお答えさせていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。確実に人数は増えているという状況だけお答えさせていただきます。

○杉本市長

40人ぐらいではなかったでしょうか。

○大石学校教育課長

いえ、もっと増えています。50人を超えていますので。

○杉本市長

今のところで、目標が「充実」だけではよく分からない気がする。「充実」というと、10人いれば足りるとすると10人にすることなのか、それとも何人

にするか決まっていなくてそこまで入れていないのか、子ども何人に対して1人を目標にするのか、よく分からない。「充実」という言い方だけではなんか中途半端な気がするけれども。

○橋本教育長

バイリンガルの相談員が入っているのと、教員のサポートも入っているので。バイリンガルはあくまでも通訳。ある程度日本語ができるようになってくると、今度は学習の方の支援も教員として配置していますので、現状でいいますとバイリンガルだけで補っているわけではないということです。

○鈴木委員

具体的にはポルトガル語ですか。

○大石学校教育課長

全員ポルトガル語です。すいません、5月時点での数が分かりました。市内全体で60人です。

○杉本市長

細江小学校が一番多いのかな。

○大石学校教育課長

細江小学校は12%が外国人となっています。

○杉本市長

細江保育園は2割が外国人。通訳ができる人を入れないとほとんど通じない。

○大石学校教育課長

すいません、現状が分かりました。かなり増えている状況で、小学校は82人、中学校は20人です。合計102人で、そのうち細江小学校が47人で約半数ということになります。

○杉本市長

だから「充実」と書いてあるのか。どんどん数字が増えていくということで、具体的な数字が挙げられないということになるということかなと。

国や県の支援はないのか。

○大石学校教育課長

今年は県の方で、県も同じような状況になりましたので、同じように9月の補

正で、これは外国人の子たちに直接指導するという非常勤の講師が10時間で3人ということで、これも配置が正式に決まって、配置を完了して実務に入るという状況になりましたので、県の方も支援をしてくれているという状況ではあります。日本人の先生が外国人の子たちを集めて指導ができるという、そういう状況です。

このバイリンガルさんは、あくまでも先生がいる授業に付きながら「今こうやって言っているよ」とか、親御さんがいろいろなことを言ったときの通訳をしたりだとか、そういうところが主な仕事になります。

○杉本市長

そのほかの関係はよろしいですか。

○近江委員

保育園施設等マネジメント計画の説明ありがとうございました。ここで要望していいかわかりませんが、牧之原保育園のケースで言うと、小学校と中学校と保育園が同じ敷地内にあるということの教育効果は、ものすごく大きいものがあります。例えば、保育実習や中学校の体育大会に保育園の子たちが参加するとか、身近にお兄さんやお姉さんの姿を見て成長することの効果というのはすごく大きいと思っています。建替えということですが、ぜひ建て替える場所についてはそのことも考慮していただければありがたいなと思います。

質問なのですが、子ども・子育て支援事業計画の中で、49ページにALTの配置ということがあって、たしか去年のこの時期に総合教育会議があって、その中で、今年度の配置、昨年度の配置で、昨年度と今年度と5.5人で、令和2年度は7人にするという目標で進められていたかと思いますが、現状のところの4人というのは、何かあるのでしょうか。

○大石学校教育課長

ALTの配置4人というのは、学校組合を除いた市での配置ということで、全体としては5人ということになります。

○近江委員

7人というのは実現できそうなのでしょうか。

○大石学校教育課長

新学習指導要領に対応できるような人数の確保ということで、結論としては7人ということは今考えていません。その中で、来年度からは、今年からもあるのですが、小学校の方で専科教員が入ってきますので、その専科教員につきましては専門性を活かしてもらうということの中で、専科教員が個人で対応できる授業と、ALTと連携する授業とをうまく組み合わせると、人数を増やさなくて

も十分に英語力について力を付ける授業が可能であると見越しながら、概ね今年と同じ人数を配置していきたいと考えております。

○杉本市長

そのほかよろしいでしょうか。時間の方も予定を少し過ぎておりますので、本日の総合教育会議は以上とさせていただきますと思います。

教育大綱の見直しに関しましては、先ほど申し上げましたとおり、見直し案を作成していきたいと思っております。委員の皆さんにも御意見を聞くような形で連絡をさせていただきますと思いますので、よろしく願いいたします。

今日は、遅くまで時間を延長させていただいて、有意義な会議を行っていただきました。ありがとうございました。

5 閉 会

○原口総務課長

ありがとうございました。

本日の総合教育会議につきまして、会議録を作成させていただきます。皆様に一度送らせていただいて、内容の確認をお願いしたいと思います。大綱につきましては、先ほど市長の話にもありましたが、今日出していただいた意見は記録として残りますが、それ以外にも、もう一度見ていただいて、ここもこうした方がいいということがありましたら、会議録については来月の中旬ぐらいまでには皆さんのところにお送りする予定でいます。そのときに返信用の封筒を入れますので、メモでも構いませんので、御意見があれば返信用の封筒に入れて送っていただければありがたいと思っております。今日頂いた意見と、それ以外に改めて皆さんから頂いた意見とで見直し案を事務局の方で作成させていただいて、次回の会議のときに提示をさせていただきます。またそこで議論をしていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。次回の日程につきましては、これから調整をさせていただきます。

それでは、以上をもちまして、第1回の総合教育会議を終了させていただきます。どうも、ありがとうございました。